

相模原の事件から学ぶこと

— 地域社会のグリーフとして —

はじめに

7月26日に「津久井やまゆり園」において障害のある方19人が殺される事件が起きました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご家族には謹んでお悔やみ申し上げます。また、けがをされた方が一日でも早く回復されることを願うとともに、困難の多い中で、けんめいにケアにあたっている職員の皆さまに深く敬意を表します。

全国精神保健福祉連絡協議会では、この事件の重大性に鑑みて、9月13日にメディアカンファレンスを開催しました。メディアカンファレンスとは、それ自体が取材の対象ではなく、メディアの皆さまに基本的な情報を提供して、より本質をとらえたよい報道に役立てていただくものです。

メディアカンファレンスでは、「精神科医療の立場から考える」、「地域精神保健の立場から考える」、「重度の障害者は生きる価値がないと考えたことへの疑問」、「グリーフケアの視点から」の報告があり、この事件を単に精神保健福祉法の問題にとどめることなく、多角的に検討することの必要性が共有されました。そして、この事件を地域社会のグリーフとしてとらえていくという視点が共有されました。

このパネル展示は、この事件を地域社会のグリーフととらえて構成したものです。グリーフを経験することは悲しいことですが、それは、ひとと社会への理解を深め、発展させるちからにもきつとなると考えます。

パネルにある文章は上智大学グリーフケア研究所のご協力を得ました。

パネルに使用した絵は、こころの苦しみを体験した方々のものです。

全国精神保健福祉連絡協議会

会長 竹島 正



橋爪栄 習作

グリーフは、人が親しい人や大事なものを喪失した時に体験する複雑な心理的、身体的、社会的反応です。

それは経験したひとの対人関係や生き方に強い影響を与えることが明らかになっています。

だれもが家族や親しい人を亡くしたらグリーフを体験します。これ自体は正常な反応であり、ごく自然な人間の感性でもあります。グリーフそのものは病的なものではありません。



田中克典 サツマイモ

日本の社会では，家族との死別を体験し
悲しみに沈んでいる人々に対してさえ
「あの人は弱々しい人だ」とか
「人の前で涙を流すことはみっともない…」などと
非難的なことばを投げかけることがあります。



大音敦 無題

ひとは「おくられびと」になる前に「おくりびと」です。
多くの場合、ひとは愛する家族や親しい友人をおくりその後、自分自身が「おくられびと」となるのです。そうになると、全人類の多くが悲嘆者として生活していることとなります。
そのことを考えると…。



*田中克典 トリカブト 仮面ライダーより

喪失によるグリーフは、

狭義には

死別，離別，裏切り，健康の喪失 があります。

広義には

財産，住居などの所有物の喪失

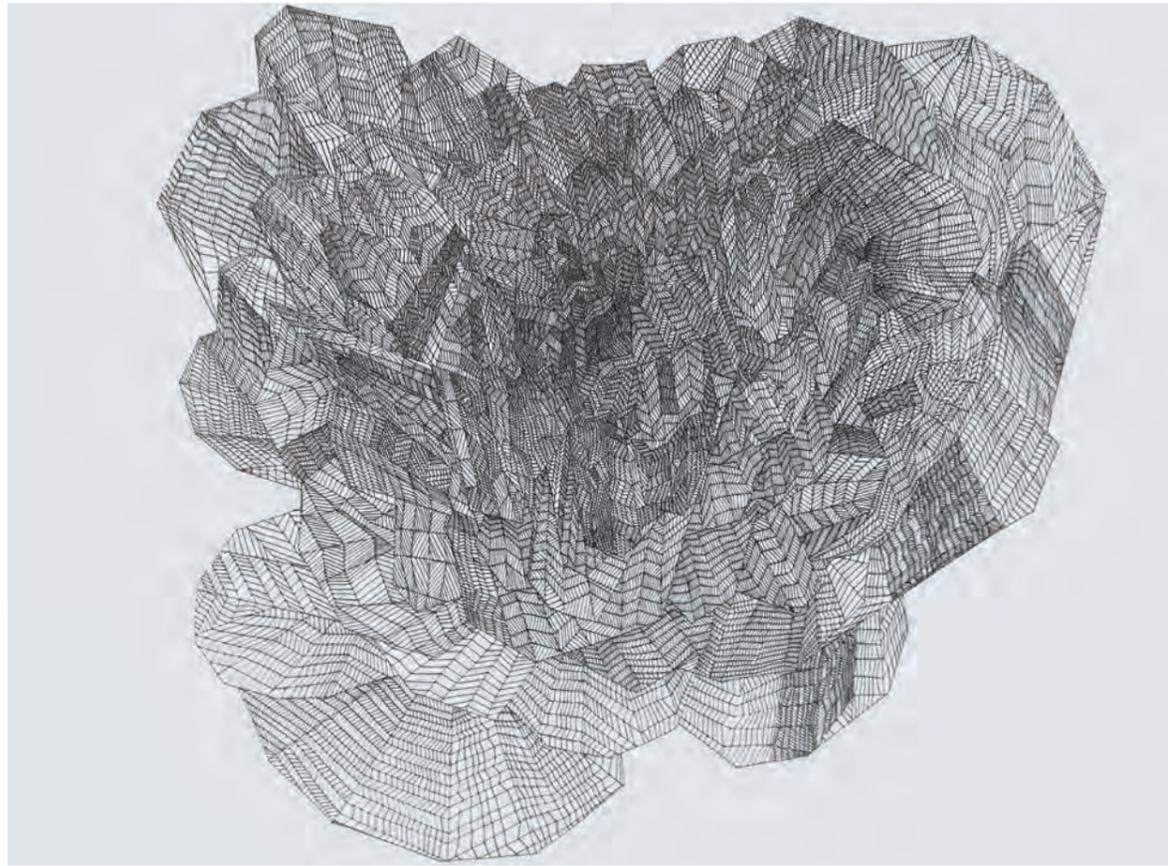
親しみなれた環境の喪失

流産や行方不明などの公認されない喪失

仕事上の失敗などによる名誉，地位，立場の喪失

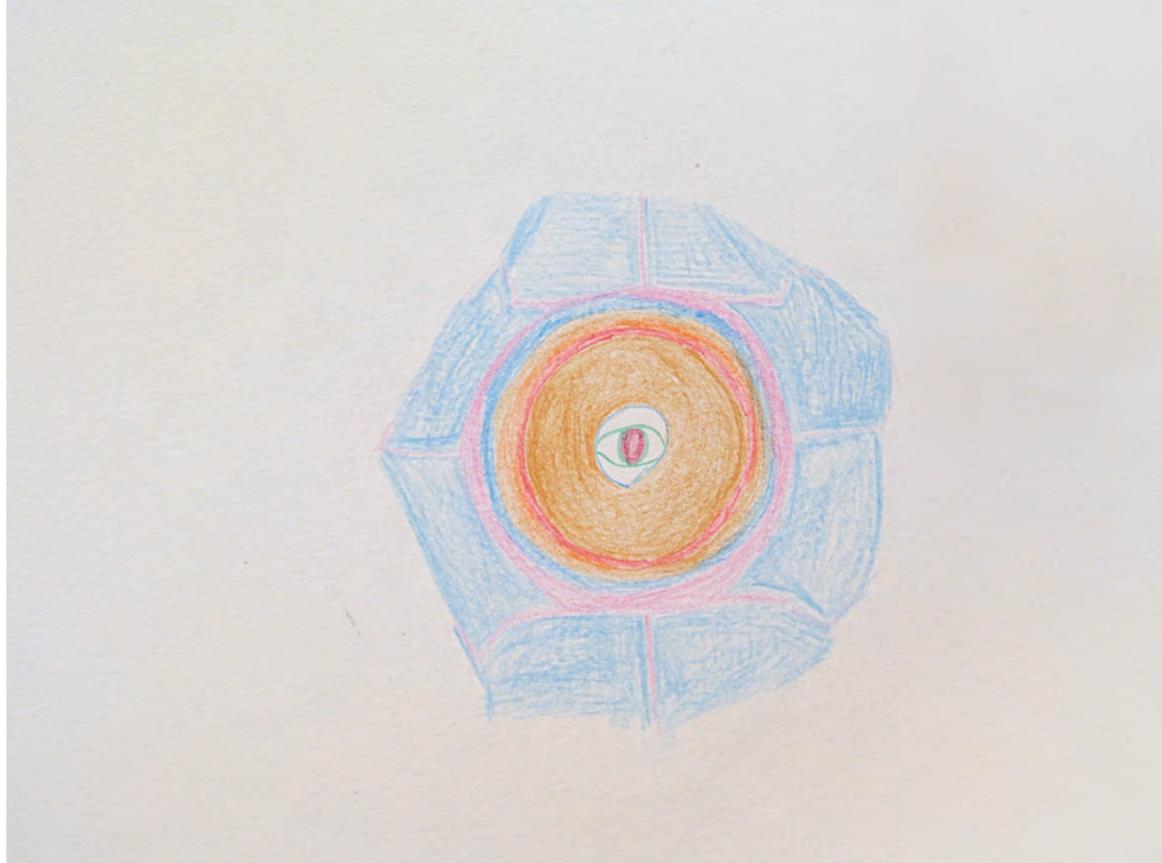
安心・安全の喪失

社会的な差別 があります。



橋爪栄 パンドラの匣

天災と人災によるグリーフの違いを考えてみましょう。
天災の場合、加害者が大自然であるため、あきらめざるを得ないという気持ちがはたらきます。
人災の場合、加害者が存在するため、グリーフは長引き、強い怒りが続きます。



大音敦 無題

グリーフからみた相模原の事件の特徴はつぎのとおりです。

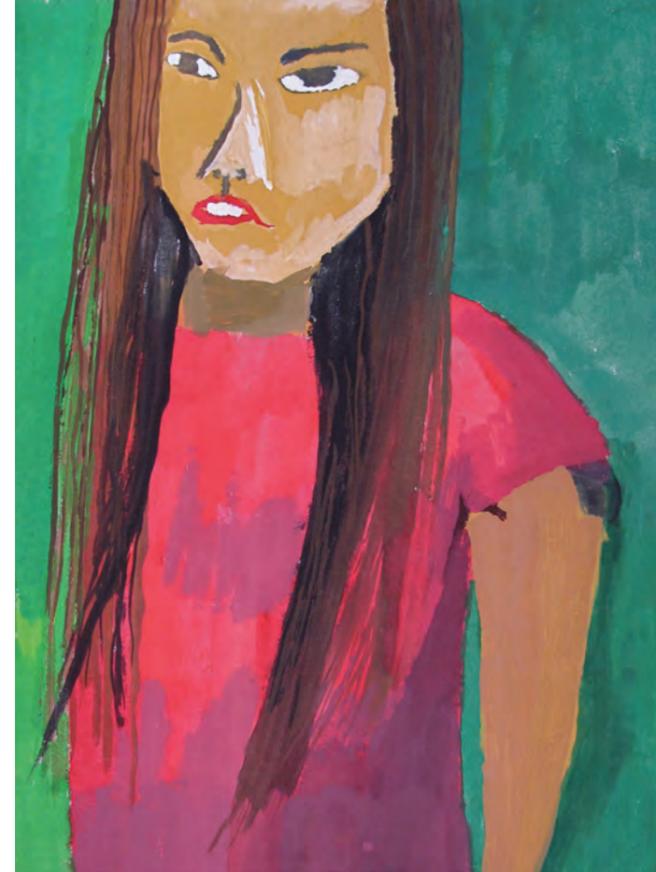
生物学的殺人だけでなく，人間の尊厳や生存を否定する二重の殺人でした。

障害をもつ人々が対象とされました。

加害者も障害をもったひとである可能性があります。

ひとびとを，社会をグリーフに巻き込みました。

6



田中克典 黒木メイサ

この事件によってグリーフを経験したのは次の方々
です。

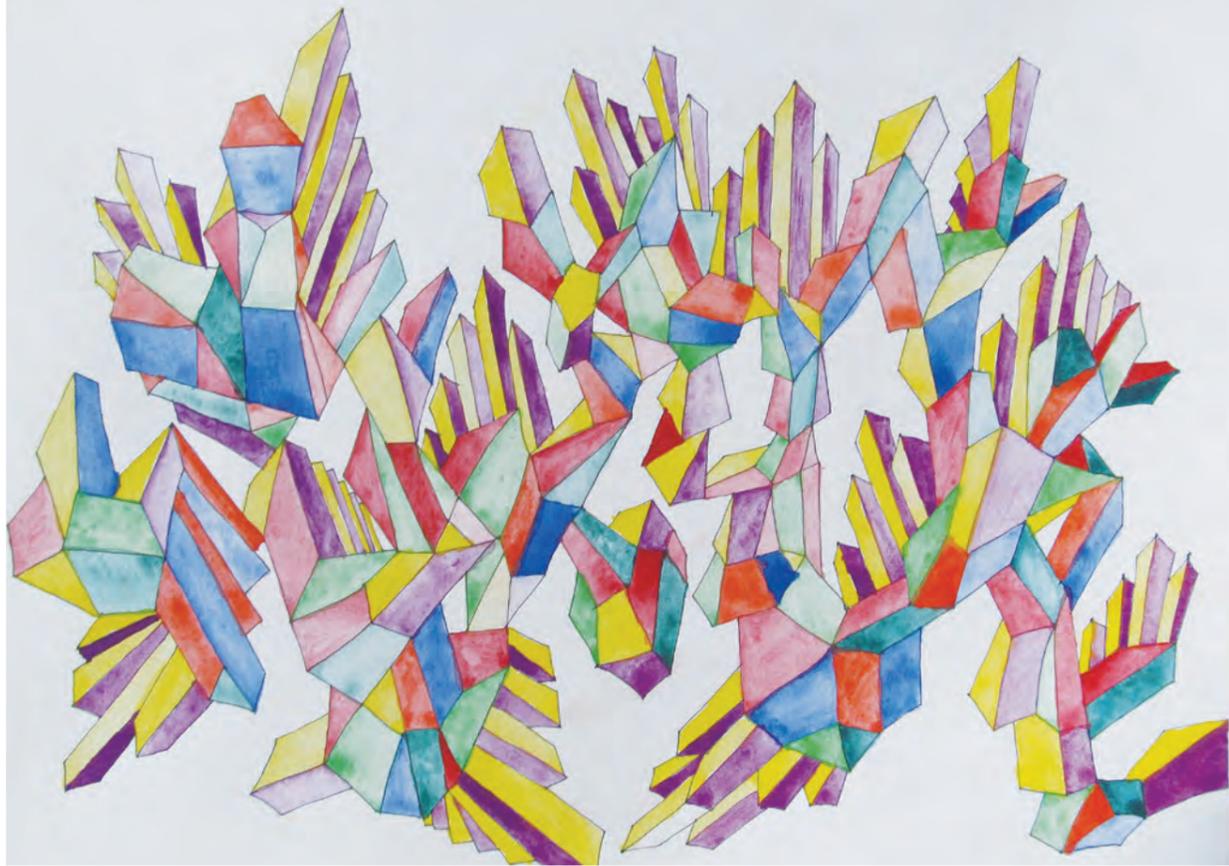
犠牲者（もっとも強く深いグリーフを感じた人々。耳を傾けてその叫びを聞きたいと思います）

負傷者（身心の痛み、とくに精神的な恐怖におびえる毎日を送っているでしょう）

遺族，家族，友人，関係者（事件後，実名を名乗ることさえできない方がいます）

障害をもつ人々（加害者も被害者も障害をもつ人々だったことへのおびえがあります）

市民（人間存在への喪失感を経験しました）



橋爪栄 習作

人の生涯は思い通りにはいかない日々，不完全な生活の連続です。

その「不完全な人生」そのものがグリーフの状態であり人間の根源的なグリーフはそこにあります。

限りなく満たされることを追い求めますが満たされることはありません。

人間は不完全なままに生涯をおくりますがそれですべてが終わるのではありません。



大音敦 無題

マザー・テレサのことば

多くの人は病んでいます。

自分がまったく愛されていない

関心をもってもらえない

いなくてもいい人間なのだとか…。

人間にとって

いちばんひどい病気は

だれからも必要とされていないと

感じることです。

人は一切れのパンではなく

愛に、小さなほほえみに

飢えているのです。

だれからも受け入れられず

だれからも愛されず

必要とされないという悲しみ

これこそほんとうの

飢えなのです。

愛を与え

愛を受けることを知らない人は

貧しい人のなかでも

もっとも貧しい人です。

「マザー・テレサ 愛のことば」(女子パウロ会)より